



# 若者国際連合-11

UNITED NATIONS FOR YOUTH  
～再び北・核ミサイルの件～

m o r i 3 5 8 0

北朝鮮がまたミサイルを発射し、日本の上空を飛び越したとおお騒ぎになった。日本上空を飛び越すのは今回で5回目である。2017年8月31日付け東京新聞朝刊によれば、「朝鮮中央通信は30日、北朝鮮が29日に発射して北海道上空を通過したミサイルが新型の中距離弾道ミサイル「火星12」だったことを確認した。発射に立ち会った金正恩朝鮮労働党委員長は「今後、太平洋を目標にした弾道ミサイルの発射訓練を多く実施」するよう指示。事実上、太平洋に向けた追加発射を「予告」したといえ、日本上空を通過する「深刻かつ重大」（安倍晋三首相）な事態が増えることも予想される。」とあった。

1998年の「テポドン1号」にはじまり、日本の上空を飛び越すのはこれで5回目であるが、今回の政府の狼狽ぶりはどうしたことだろう？日本の首相がアメリカ大統領と2日連続して緊急電話するのは初めてのことである。日米をあわてさせるという点では、北朝鮮の成功と言えるのではないか？

今後どうなるのか、どうなって欲しいのかを検討したいと思っている。

まえがき

第1章 北ミサイル、日本上空通過

- Q：北ミサイルが日本上空を通過したと大騒ぎに...?
- Q：北朝鮮の意図は...?
- Q：北トップ指示「今後も太平洋方面に...?」
- Q：「公空」という概念は初めて聞くが...?
- Q：「公空」なら何が通ってもいいとなれば、核爆弾だって通るかもしれない...?

第2章 大気圏への再突入技術

- Q：大気圏への再突入技術はできたのか？
- Q：公空を通過して宇宙から攻撃する、技術的に可能か？
- Q：アメリカはどうだろうか？
- Q：ウサギと亀の話を出した？

第3章 アメリカには柔軟な対応を

- Q：アメリカはどう出るだろう？
- Q：あとが大変とはどういう意味？
- Q：朝鮮民族が一つになる方向ならいいんじゃない？
- Q：それにアメリカにはEUがついている？
- Q：要はアメリカの対応次第か？
- Q：両者が同じ程度の進み具合ならいいが...?
- Q：北朝鮮がICBM用の水爆を発射したってね？
- Q：アメリカは白人至上主義のように、他民族を下に見る傾向があるが...?

題4章 どうする？日本の態度

- Q：国民投票があったらどうする？
- Q：あなたは？
- Q：具体的にどうすればいい？
- Q：軍事力なしのきれいごとでは行かない？
- Q：先のことは分からない。間違いも当然ある？

Q：間違ふこともあると言われれば、少し気が楽になる？

あとがき

Q：北朝鮮のミサイルが日本上空を通過したと大騒ぎになっているね？

A：日本上空通過は5回目なのに、今回は大騒ぎだね。第1回は1998年の「テポドン1号」、第2回は2009年の「テポドン2号」、第3回は2012年の「銀河3号」など。今回は5回目なのになぜ大騒ぎするのだろうか？ロシア・中国方面には発射しにくいので、日本海や太平洋という海ばかり狙っているように見える。着地点が公海ならば反撃もされず、戦争にはなりにくい。

今回のテレビ中継でインタビューされた人が「上を爆弾が通過していると思うと気持ち悪い」と言っていたが、まさにその通りで、上空何キロまでは「領空」と決められていて、それから上は「公空」つまりどこの国の何が通っても自由と国際ルールで決められていけば良いのではないか。海については「領海」「公海」がはっきりと決められているが、空については聞いたことが無い。まさかこの宇宙時代に、領土の上なら何千キロ上空でも領土とかんがえているのだろうか？こういう機会に、国連で話し合いで決めたらどうか？もちろん北朝鮮にも声をかけ、参加することが大切だ。宇宙時代にふさわしい取り組みといえるのではないか。

今回は一般大衆のほうがちがっているように見えるが、政府とマスコミはあわてて、国民の不安や脅威を助長しているように見えた。当日朝のテレビやラジオは北朝鮮関連ばかりであった。政府があわてていたのは、支持率の下落や都議選の敗北が原因の一つと考えられているが、私もそう思う。私は前大戦の時、政府のすすめる避難策で助かったという話を聞いたことが無い。一万メートルの上空を米軍の飛行機が飛んでくる時代に、竹槍で立ち向かえと言っていたのだから、時代錯誤も甚だしい、と今でも思っている。数千メートルしか届かない日本の高射砲を見ていて、切歯扼腕したことを覚えている。放射能の時代に、建物の中で頭を抱えているだけで、どれだけ効果があるというのだろうか。

首相が2日続けてアメリカのトランプ大統領と緊急電話したと伝えられたのは、北朝鮮を喜ばせただけという説もある。日本の首相はどうしていいか分からずにおろおろして、アメリカに電話した、と受け取る向きもある。

Q：北朝鮮の意図は？

A：戦争は望まず、アメリカに譲歩を迫ることだと思っている。戦争になれば、結局国

力の差がものを言うようになることは、北朝鮮の幹部はみんな知っている。現体制の維持、これ以外にはどうでも良いことではないか？

Q：北朝鮮のトップが「今後も太平洋方面にミサイルを打つ訓練をするよう」に指示したと伝えられているが...？

A：およそ20年も前から、日本の上空を通過していたのだから、上空通過についてはそれほど神経質になることもない。それよりも海（太平洋）を狙えと指示したことを重く見ている。つまり公海を狙えば戦争にならないことを知っている人の指示だ。北朝鮮は戦争は望まないというメッセージとも受け取れる。

Q：「公空」という概念は初めて聞くけど...？

A：宇宙時代だからね。空には、天気予報やカーナビでお世話になっている宇宙ステーションもあるから、何キロから何キロまでは領空、それ以上上空は公空とはつきり決めておいた方が良く、と思う。領空侵犯ならはつきり異を唱えることができる。あいまいなのをもっともいけない。自分や自国に都合よく解釈する傾向がある。

それに地球以外にも生物がいるかもしれないから、地球人はこう決めている、ということもできる。

Q：「公空」なら、どこの国の何が通ってもいいとなれば、核爆弾だって通るかもしれない、防ぎようがない、ことになる...？

A：戦争はできなくなるだろうね。攻撃はワン・ポイントでいいが、防御は広い宇宙を全部防衛となる。これは費用が掛かりすぎる。攻撃側が発射した後、防御側はそれをできるだけ早く察知し、防衛用のシステムを稼働させなければならない。これは至難の業だ。

それに、これからは心臓部を直接狙うようになるから、基地の役割は必要ないことになるかもしれない。戦争の形が変わるだろう。こういう激変の時代には、いろいろ過去に捕らわれる中高年は向かない、若者の出番である。

## 第2章 大気圏への再突入技術

---

Q：大気圏への再突入の際ものすごい高熱（数千度）で弾頭がやられてしまうそうだけど、それを防ぐ技術はできたのかできないのか？

A：北朝鮮は前回の実験の際「大気圏への再突入技術も完成した」と発表したけど、米韓を始め国際社会の専門家たちは疑問視している。当事者の発表を重視すれば、「できた」ことになり、専門家たちの発言をとれば「できていない」ことになる。真相は不明だ。

再突入技術の問題は重要である。北朝鮮の言い分を聞けば「宇宙からの攻撃はできる」ことになり、戦争の様子はすっかりかわることになる。小国も大国に勝てる可能性が出てくる。

前章の「領空」「公空」の問題とこの再突入技術の問題とが、北朝鮮の核ミサイルの問題の核心と私は思っている。

Q：「公空」を通過して、核心に向かって「宇宙からの攻撃」をすれば、技術問題さえ解決すればよいことになる。北朝鮮はそれを狙っている...？

A：私の聞いている範囲では、大気圏への再突入技術は非常に難しく、現在の人類の技術レベルでは出来そうもない、と聞かされてきた。ここに落とし穴があるのかもしれない。宇宙時代と言われながら、「宇宙からの攻撃」を想定しなかったのは、人類のおごりであったのかもしれない。

北朝鮮は愚直に技術を追求し、成功したのかもしれない。世界で、再突入技術を持っているのは北朝鮮だけ、というような事態は、国際社会では想定できなかった。万一そうであったら大変なことになる。

Q：北朝鮮だけということは無いのでは？国際社会にも「できる」国があったらその場合どうなる...？

A：万事交渉ごとになる、と思う。空にも海のような領空制度を設けることと絡んでくると思う。宇宙時代にふさわしい話し合いがまとまることを期待している。この話し合いの場合、地球人以外の生物の存在も意識する必要があるのは当然である。

Q：北朝鮮以外では、最有力なのはアメリカだけ？

A：アメリカも、大気圏への再突入の際の対策はあると思う。アメリカは広すぎるし、同盟国も多い。国際社会で頼りにしている国は多いと思う。地球をそっくりそのまま防衛するには、費用が掛かりすぎるので、先制攻撃が行われた後、そのミサイルを打ち落とすことを考えるのはやむを得ない、と思う。しかし、間に合うかというタイミングの問題もあり、ミサイルの弾頭には核が搭載されている場合が多いので、打ち落とすことで宇宙空間に放射能をまき散らす恐れがある、迎撃成功などと喜んでいいのかどうか、難しいところだろう。

日本でも、首相が迎撃態勢に万全を期すなどと言っているが、宇宙空間に放射能をまき散らすことが、人類の生存にとってどういう影響があるのかわからないのか分かっていない、という面がある。迎撃成功なれど、人類全滅というような事態にならないのであれば...。迎撃など考えずに、「公空」を飛び去り海へドボンの方が人類のためであるのかもしれない。

Q：ウサギと亀の競走の話思い出した。足取りの遅い亀が早いウサギに勝つ話。現在の人類の技術レベルではできそうもないと安心しきっていたウサギが、愚直にゴールを目指して歩き続けた亀にいつの間にか追い越されたのかもしれない...?

A：ウサギと亀の話は、西洋ではどの童話に入っているのだろうか？そういうこともあるかもしれない、とだけ言っておこう。「白人至上主義」などという人種差別が今でもまかり通っている国だけに、あるいは他人種・他国民を下に見る、つまり技術的に追いつかないと見ていたのかもしれない。

要は、宇宙時代といいながら、地球上の戦争にかまけていたツケが回ってきたのかもしれない。宇宙時代にふさわしい、話し合いを行い、ルール化する、それを皆で守るという信頼関係の育成が必要ということだと思う。

北朝鮮のミサイル問題をきっかけに、すべて話し合いでルール化し、それを守るという信頼関係を育成できれば、多くの人や国が災いと思っていたことも幸いに転じることができる、ということだろう。



### 第3章 アメリカに柔軟な対応を

---

Q：アメリカはどう出るだろう？

A：北朝鮮は戦争を望んでいないことは分かったが、アメリカはあらゆる選択肢を用意していると大統領が言っている。トランプ氏は「米国第一主義」を唱えて大統領に当選した人である。「米国第一」を実現するのに、従来のように「軍事力」路線をとるのか、別の方法をとるのかは今のところ分からない。ただ民主的な選挙で選ばれた人だけに、民意は無視できない。「やられる前にやれ」という声が大きくなると、次の選挙のことを考えて、先制攻撃ということがあるかもしれない。私が恐れていることでもある。

私は、トランプ氏がビジネスマン出身ということに期待している。ビジネスには競争も協力もつきものであり、先制攻撃は結果は早いかもしれないが、あとが大変である。こんなことは海千山千のビジネスマンならとっくに分かっていると思う。

Q：あとが大変という意味がよく分からない...？

A：先制攻撃で、戦争には勝てたとしても、現体制を倒したら、後のことも準備しておかなければならない。南北朝鮮をどうするのかという問題にも発展するかもしれない。これには前世界大戦の勝ち組＝国連安全保障会議常任理事国の考えも聞かなければならない。その中には、ロシアや中国も入っている。一筋縄では行かない。「あとが大変」という意味はそういうことだ。歴史の歯車を逆に回すことになるのだから。

朝鮮民族が一つになる方向ならよいのではないか。今よりも半島情勢は安定するだろう。日本の上空をミサイルが飛ぶこともなくなるだろう。しかしロシアや中国は何とだろうか？

Q：それにアメリカにはEUもついている？

A：ロシアや中国を説得するよりも難しいとは思わない。価値観が同じだから、アメリカの行き方にはヨーロッパ諸国は賛成することだろう。しかし武力に頼らず、話し合い解決を望むだろう。

Q：要は、アメリカの対応次第ということになりそうだね？

A：アメリカはあらゆる選択肢を用意しているというから、どうなることか分からない

いが、いっぽうの北朝鮮が戦争を望んでいないとすれば、戦争は回避されるだろう、と思う。アメリカの対応次第というご質問の通りだろう。

しかし、前章で述べた、核ミサイルの大気圏再突入の技術についての進み具合にもよる、ということだけは言っておきたい。両者がその技術を解決している場合とどちらかが未解決の場合とでは、話し合いも変わってくる可能性もある。

Q：両者が同じ程度の進み具合ならいいが、どちらか一方がはるかに進んでいることが分かったら、難しいね？

A：北朝鮮の発表通り、「北朝鮮側はすでに解決済み」であり、「アメリカを中心とした国際社会側が技術的に未解決」となれば、交渉は難しくなる、と思う。北朝鮮の言う通り、「公空」を通り「宇宙からの核心攻撃」が可能となれば、アメリカの対応は難しくなる、と思う。

その時の対応だが、米韓の専門家が言うように「2年かかる」のであれば、アメリカの対応としては2種類が考えられる。一つには2年間グダグダ言って結論を伸ばし、その間に技術の進歩をはかる、という方法と、二つには即話し合い決裂＝戦争という方法が考えられる。どんな場合でも、アメリカには「米国第一」の国としての大人の態度・柔軟な姿勢を望みたい。それでこそたくさんの国の支持を得て、別の意味で「米国第一」が実現することになる、と私は思っている。

Q：北朝鮮がICBM用水爆を発射したね...？

A：9月4日東京新聞朝刊によると、「北朝鮮最大核実験」「ICBM用の水爆」「成功声明 2年連続6回目」と一面大見出し。「ソウル＝境田未緒 朝鮮中央テレビによると、北朝鮮の核兵器研究所は3日、大陸間弾道ミサイル（ICBM）に装着する水素爆弾の実験を3日正午（日本時間同午後零時半）に行い、「完全に成功した」と発表した。」とあった。

これには解説記事（中国総局 城内康伸）があり、「危うい米朝の駆け引き」という見出しがついていたが、私はその通りと思った。その記事は「米朝双方が互いの対応を見誤って、不測の事態を引き起こす可能性さえ、現実味を帯びつつある。」と締めてあった。今迄はゲームで済んだようだがこれからはそうはいかない、本番＝戦争になる可能性もあると心配した。

アメリカに大人の対応・柔軟な対応を切に望みたい。

Q：アメリカには「白人至上主義」のように、他民族を下に見る傾向があるようだけど、この傾向が影響している部分はない...？

A：確かに他民族を下に見る傾向がないとは言えないが、純粹に技術の問題だから、「できる」「できない」は交渉しているうちに、お互いに分かってくると思う。技術的に北朝鮮が「できる」、アメリカが「できない」場合がもしあれば、交渉は難しくなると思う。その場合でも、アメリカには交渉のテーブルにはいてもらいたいし、柔軟な態度を望みたい。アメリカには宇宙時代にふさわしい交渉内容と、新しい時代を共に創る。という姿勢を望みたい。

Q：国連の安保理で決まった新しい北制裁措置について...

A：アメリカがロシア・中国の意見を尊重し譲歩して、満場一致で採決されたと報じられた。アメリカが最強の自説を譲歩しても、全会一致を目指したことに注目したい。アメリカは自説を強行すれば、ロシア・中国の拒否権に会い、下手をすれば国際的に孤立することを避けたと言える。原油輸出の禁止ではなく、原油輸出に上限を設けたのは、賢明な柔軟な姿勢と映ったようだ。アメリカにも、戦争は避けたいという気持ちのあることが分かった。

一方、北朝鮮の方も9月9日という大事な日に、実験を避けたことは評価されるべきと思う。10月にまた大事な日があるが、これ以上「レッドライン」に近づくことは無いと信じる。

双方ともに「我慢比べ」を見事にやりとげた、といってもよいのではないか？人類全滅の危機をはらんだ「我慢比べ」も、人類は見事に収束したといえる。

## 第4章 どうする？日本の態度

---

Q：結局は日本がどうするかを世界から問われているみたい。国民投票があったらどうするか...？

A：自由・平等・民主主義・平和主義を中心として考えれば、おのずからどういう投票態度をすればよいか分かってくると思う。80年近く、こういう基本的なことを考えないで生きてきたツケが回ってきている、と言っても良いのではないかな？

欧米諸国を中心とした陣営にとどまるのか、それともそれに反対する陣営に入るのか、第三の道として二大陣営の調整役として生きるのかを、国民投票で決めることになったら、あなたはどのような投票行動をとるつもりかを日ごろから考え、話し、行動を共にする仲間がいればよいが...？

Q：あなたはどうする...？

A：私は歩けるうちは自分の足で投票所に行きたい、と思っている。棄権はしないということだ。しかし今85歳だからその時生きているかどうか分からない。私の経験したことを率直にお話し、生きている時間の長い若者たちの判断にお任せしようと思っている。20世紀までの人類史の中で、お互いに殺し合う「死の文明」を追求してきたが、これからは誰もが希望を持って生きるための「生の文明」を追求する時代である。その気配が各国の投票に顕れている。

Q：そういわれても、具体的に言えばどうすればよいのか分かりにくい...？

A：政治的にも経済的にも、現在の日本は欧米諸国側、いわゆる西側にたっている。大量生産・大量消費・環境汚染の西洋文明のゆきづまりから、欧米社会をリードしてきたアメリカの相対的な影響力の後退などから、このまま明治以来の欧米追従でいいのかという疑問がわいてきた、という意見もある。それに対して、いまさら社会主義体制には加われない、自由な経済活動を追求しながら格差を減らすことを考える、という生き方もある、という意見もある。

私は混乱を避けるために、現在の資本主義の欠点＝自由な経済活動を認めれば経済格差は広がるので、格差是正政策をとりながら、現在の経済体制のまま行くのが良いと思っているが、若者はどう感じているだろうか。

安全保障の問題は、相手があるだけにさらに難しいと思う。今はアメリカと同盟を結びアメリカの核の傘に入っているが、このままでいいという意見もあれば、そうでないという意見もある。私は軍事力充実は軍備拡張競争に巻き込まれ、民生がおろそかにされるという体験をしてきているので反対である。軍事力を使わずに、我慢強く政治・外交で努力を続けるのが良いと思っている。これからは軍事力に頼らず、すべて話し合いで解決する「我慢比べ」の時代である。

Q：軍事力を使わずに、といっても、実際に使ってくる予告をする国もある。そんなきれいごとでは行かないが...?

A：軍事力を使わずに、という国際常識を育てるには相当長い時間が必要だろう。その時、「丸腰は撃たない」という常識を育てて、世界的に広めたハリウツドの戦略も参考になるだろう。戦争は、私たちの生活を根底から破壊するだけだ。残念ながら、私はその経験をしてきた現代史の証人の一人と思っている。

Q：先のことを決めるのは難しい。間違うことも当然ある...?

A：間違うことも当然ある。人間はミスを犯す動物ともいわれている。間違ったと思えば、その気付いた時に、話し合いで軌道修正すればよいのではないか？その時に宇宙時代・グローバル時代であることを忘れずにいれば、よいのではないか。つまり国益というエゴを捨て、より高く広く、議論をすることだと思う。

Q：間違うことも当然ある、と言われれば少し気が楽になる...?

A：人類の歴史が、今から思えば間違いだらけと言えるのではないか？そのつど軌道修正して現在に至っている、ともいえる。正解は分からないが、若者や子供が希望をもって生きられる社会を目指すのが正しい、と思っている。

今回は、北朝鮮が発射した核ミサイルが日本上空を飛び越したと大騒ぎになった。20年も前から行われこれで5回目である。大騒ぎするのは政府とマスコミである。政府は支持率回復のため、マスコミは視聴率稼ぎのためと分かっているにもかかわらず、大騒ぎする政府とマスコミが事態を悪化するのが憂えるばかりだ。

大騒ぎすればするほど緊張を高めるとは考えないのだろうか。過剰反応は事態を悪化させるだけである。とくに発射当日のテレビはどのチャンネルでも、この問題ばかりであった。まるでエンターテインメント化しているように思えた。人類全滅の危機をはらんだ問題とは考えなかったようだ。

関係国2国は、冷静に「レッドライン＝戦争開始」を見極めていたようだ。踊らされていたのは誰だったのか？だんだんに分かってくるのだろう。

いま私は85歳、いつまでできるか分からないが、これからも自分の体験をベースにした考えを、ときどき発表してゆきたいと思っている。若者の参考になれば幸いである。

\*\*\*\*\*

その他の公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一3 ～地球第一主義](#)

[若者国際連合一12 ～宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合一10 ～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一9 ～核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合一8 ～今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合一7 ～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合一6 ～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5 ～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4 ～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一3 ～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合一2 ～若連が動き始めた](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)